

経営比較分析表

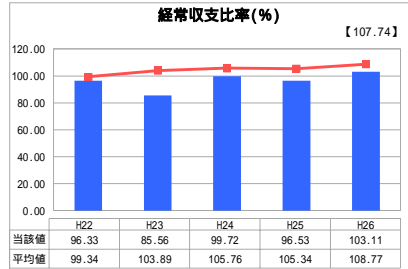
福島県 南相馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	53.86	53.07	57.50	2,673

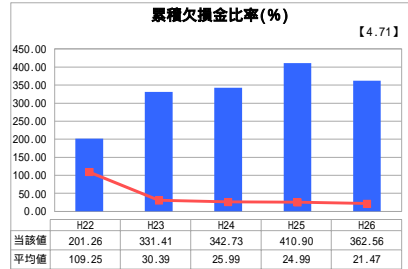
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
64,539	398.58	161.92
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
34,027	10.22	3,329.45

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

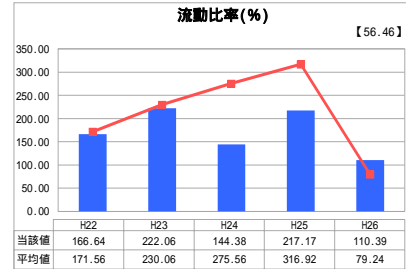
1. 経営の健全性・効率性



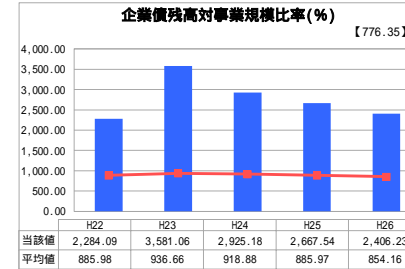
「経常損益」



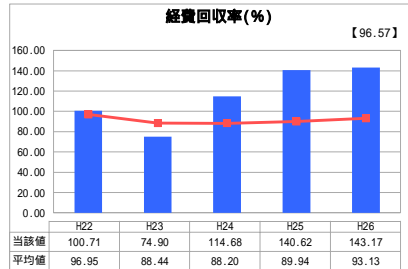
「累積欠損」



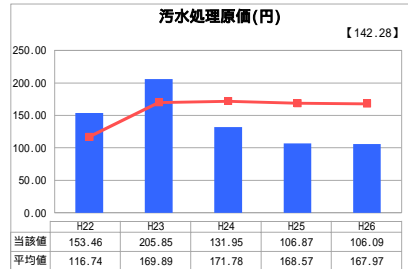
「支払能力」



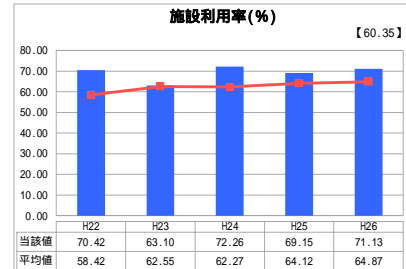
「債務残高」



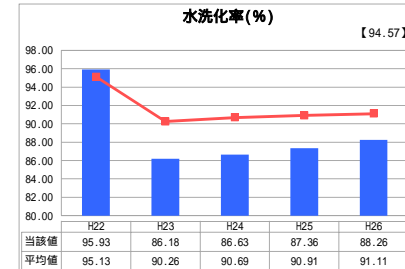
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

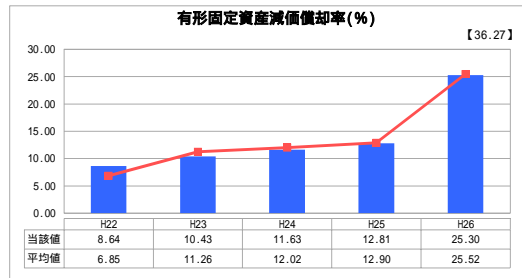


「施設の効率性」

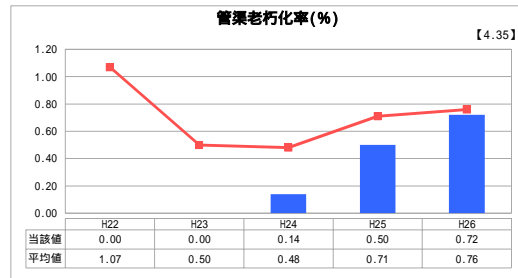


「使用料対象の捕捉」

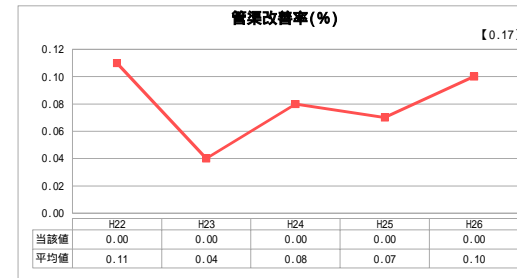
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収益率は103.11%で黒字であるが、累積欠損金比率が平均値より高い状態(362.56%)である。ただし、累積欠損金比率は前年度(410.90%)に比べて減少しているため、引き続き減少させる必要がある。対策としては、水洗化率が平均より低い状態であるので、排水設備設置工事資金利子補給金制度を設け、接続率が増加するように努めている。企業債残高対事業規模比率についてはH23に上昇したものの、その後は年々減少している状態である。汚水処理原価については平均より低い金額(106.09円)となっており、そのため経費回収率は平均より高い状態(143.17%)である。

2. 老朽化の状況について

管渠老朽化率について、H24より発生しているが、管渠改善率は0%であるため、今後計画的に改善の対応をしていく必要がある。

全体総括

本市では、東日本大震災と東京電力の原発事故により、いまだに一部の地区において避難指示が継続されている。そのような状況の中で、想定していなかった復旧に係る事業を行うことにより、一時的に財政状況が悪化した。経常収益率の上昇・累積欠損金比率や企業債残高対事業規模比率の低下など、徐々に回復の傾向を示している。今後も引き続き経営状況を改善させるよう努める必要がある。また、今後は管渠の老朽化が進むことから、計画的に改善の対応を進めていくことが求められる。具体的には、本年度に管渠施設長寿命化計画の作成に向けた調査・診断業務を実施しており、来年度以降に計画策定・実行と進めていく。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。